

舞動儒風

伝統の祭典

儒教文化に触れる小さな旅

孔子廟を巡る

開館時間:

火曜日～土曜日 08:30～21:00

日曜日・祝日 08:30～21:00

(月曜日休館)

台北市大同区大龍街275号

台北孔子廟: www.ct.taipei.gov.tw

お問い合わせ: 886-2-25923934



主催: 台北市政府
共催・実施: 台北市民政局 台北市孔子廟管理委員会

臺北市孔廟
Taipei Confucius Temple

廣告

孔子廟を巡る

南宋の儒家朱熹は孔子を讀えて以下のように述べました。「天不生仲尼、万古如長夜。」(もし孔子が生まれなかったら、この世は永遠に続く長い夜のようなだろう。)

激動の春秋戦国時代、あるべき秩序も失われた中、紀元前497年に55歳の孔子と弟子たち—子路、子有、子淵らは、時代を大きく変え、新しい世界を切り開く知識の要となる鍵をひっそりと動かしたのです。孔子たちは14年もの歳月を費やして、衛、曹、宋、鄭、陳、蔡—6ヶ国を周遊し(紀元前484年)、「有教無類」(教えありて類なし)という教育理念をもって知識の普及とその深化に努め、2500年もの長きに渡る儒教文化の伝統を生み出し、世界各地に広がる儒学文化圏の基礎を築いたのです。「知識」は集団を向上させる力となり、この力は2000年後の世界をも揺り動かすエネルギーを持っています。

中国では、祖先の霊を祭る廟は支配者が定めた法律制度や地位の象徴でもあり、先賢に対する尊崇の念や文化的特色も表されています。「坐北朝南」(北を背にした南向き)の台北孔子廟は、四進式で左右に護龍が配置され、曲阜孔子廟を参考にしつつ閩南様式を融合させた建築群です。1925年(民国14年)に台北市の名士黃贊鈞、陳培根、辜顯榮らが発起人となり、200人を超える人々から寄付を募って建造されました。1930年(民国19年)、30年もの間行われなかった孔子を祭る大典が再び催され、1939年に14年の歳月を経てようやく竣工したのです。

中国古代の学術思想の集大成者である孔子は「祖述堯舜、憲章文武」と述べ、古代の聖王を尊び、その道を伝えました。「高山仰止、景行行止。」(高山は仰ぎ、景行は行く)—儒教的精神を胸に抱きつつ孔子廟を巡り歩けば、数千年に渡って受け継がれてきた儒学の伝統が感じられるでしょう。

1

万仞宮牆—
高く聳える外壁

『論語・子張第十九』子貢曰く
「夫子之牆數仞、不得其門而入、
不見宗廟之美、百官之富、得其門
者或寡矣。」

「(屋敷の塀に喩えて言えば、自分の塀はとても低い)孔子さまの塀は10mもあるので、門を見つけて中に入らなければ、塀の外からその美しさ、豊かさを見ることはできません。しかしその門を見つけられる人も少ないようです。」孔子さまの学問もその塀と同じように高く奥深い—子貢はこのように述べて孔子を讃えました。

台北孔子廟を参観なさる際は、孔子の77代目の子孫にあたる孔徳氏が文字を書いた万仞宮牆からご覧ください。



2

泮宮と黌門—礼を守り義に従う

古代の礼法によれば、天子の太学(古代の最高学府)の中央には、周囲に池を巡らせた「辟雍」という大学があったそうです。諸侯(各国の君主)は池の南側の「泮宮」(東側の門)で学びました。「黌門」(西側の門)は古代の学校の名前です。屋根の端が燕の尾のように反り返った重簷式の門から一歩中に入ると、儒家の学堂に入ったことを示します。

孔子とその教えを尊ぶ精神を表すため、普段中央の大門は閉ざされていますので、泮宮と黌門より小さい礼門(西側の門)か義路(東側の門)からしか入れません。これは、儒家の学問の第一課「礼を守り義に従う」精神を学ぶことを意味しています。



1



臨泮池—塀に描かれた色鮮やかな麒麟

万仞宮牆の裏は麒麟の絵が描かれた「照壁」になっています。言い伝えによると、孔子が生まれた時、麒麟が庭に駆け込んできて玉書を吐き出し、聖人の誕生を告げたそうです。そのため、後世の人々は賢い子供を「麒麟児」と呼ぶようになりました。麒麟も「仁獣」です。ここに描かれている麒麟は、知識を学んで礼に達することを象徴する「書物」、富と幸福を表す「孤軍」、とんとん拍子の出世を意味する「官印」、万事思い通りになる「如意」—おめでたい宝物4種を踏んでいます。「照壁」も閩南地方の建築様式を表す特徴の一つです。自然光線を反射または吸収する働きもあります。

「泮池」とは孔子廟特有の建築用語の一つで、「泮宮の池」を意味します。池の中ほどに石の太鼓橋があり、「泮橋」または「状元橋」と言われています。竹の節を彫刻した欄干上部には「文筆柱頭」と言われる擬宝珠があります。見た目の美しさはもちろんのこと、高潔さや文運を象徴しています。また、防災や外気温の調節などの効果もあります。



4

樞星門—天に輝く文運の星



「樞星」とは、天上に輝く文運の星のことです。孔子を祭る際に泮橋を渡って青雲路を歩き、樞星門と儀門を通過して大成殿に向かえるのは、進士殿試に合格した状況だけです。「殿試」とは、科挙の最終試験のことです。台北孔子廟の樞星門の屋根は歇山重簷式です。その姿はまるで殿堂のようで曲阜孔子廟(山東省)とは大きく異なります。易術では「9」を最大の陽数とし、「108」を最も尊い数とします。門には色鮮やかな門神の姿は描かれていませんが、108本の門釘による装飾があります。この扉は古くからの慣わしに従って作られたもので、孔子に対する尊敬の念を表すほか、天上の108星宿(星座)も象徴しており、それはちょうど道教の門神の一種である36天罡(北斗星)、72地煞(地煞星/凶星)の数に合致します。入門後、梁に洛書八卦を描くのも、廟宇を守り魔除けになるとされています。

孔子の眼前で文章をひけらかすのは気が引けるので、門聯に題字はありません。「門聯」とは、門の左右に書く対句のことです。樞星門の中門左右には一対の抱鼓石があります。その形は「龍生九子」の末っ子—内気で恥ずかしがり屋の「椒圖」を象ったものです。入口で小さく丸まっている姿には、「己の分をわきまなすべきことをなし、故郷を守る」そんな意味が込められています。抱鼓石には門扉を開閉する際に生じる反作用を和らげ、門柱の振動を抑える働きがあります。

入口には泉州白石を彫刻した四爪の蟠龍の石柱一対があります。身体をくねらせ上昇する龍の彫刻は実に精巧でその姿には力強さを感じられます。よく見ると、大きく開いた口の上部と鼻孔に穴があり、より生き生きとして見えます。簡素な花鳥の紋様も施されており、文化の香り高い孔子廟によく映えています。

両扉南側の「堰頭(軒下にある装飾部分)」を飾る交趾焼も閩南様式を示す特色の一つです。龍の側に「孔子問礼老聃」、虎の側に「孔子師項橐」というユニークな作品があります。



5

儀門—見事な彫刻と交趾焼



大成殿前に位置する儀門は大成門とも称されます。樞星門と同じく孔子を尊ぶために普段は閉ざされており、祭典の時だけ開けられます。龍の側を金声門、虎の側の門を玉振門といい、普段はここが出入り口になっています。「金声玉振」とは、孟子が孔子の人格をほめたたえて言った言葉で、『孟子』に記されています。

交趾焼を見てみましょう。龍の側の武將は右手に旗戟(旗矛)を、左手に磬(古代の打楽器)を持っています。これは「吉慶」を表しており、春の牡丹と冬の椿は四季の平安を象徴するものです。虎の側の武將は右手に旗を掲げ持ち、左手に球を持っています。これは「祈り」を表しており、夏の蓮と秋の菊も見えます。門の両側にある窓には、対になった8頭の螭龍で香炉を象った木製彫刻が嵌め込まれています。流れるようなラインが美しく勢いもあり、巧みの技が見て取れます。この「螭龍囲爐」と題された彫刻は吉祥如意を象徴しています。

儀門から中に入ると、門の両脇に置いてある鐘と晋鼓が目に入ります。これは祝賀礼で使われる楽器です。「祝賀礼」とは、孔子の生誕記念日である9月28日に行われる、古代の先聖先師を祭る儀式のことです。儀式の際はこの鐘を鳴らして吉祥と平安を願います。



6

5000年の集大成—「教えありて類なし」



「大成殿」は孔子廟の本殿です。宋徽宗帝(在位期間1100-1125)は孔子を讃え、「先聖先賢を集大成する」として、この建物を「大成殿」と名付けました。その大きく立派な重簷歇山式の屋根の中央には7層の宝塔があり、加護や魔除けの役割を果たしています。左右両端の大魚の上に見える筒状のものは「通天筒」と言います。この筒は絡みつく龍の紋様で飾られており、「徳配天地、道冠古今」を象徴しています。これは孔子の徳の高さを讃える言葉です。また、棟の上に見える、教化された獅猛なフクロウ72羽の装飾は、「有教無類」、「因材施教」という優れた教育理念を象徴しています。両者はいずれも孔子廟特有の装飾です。このほか、飛簷(鳥が翼を開いたように反り返った庇)にある「鸱吻」(棟両側に設置する装飾)の「剪黏」(台湾の寺廟の屋根に用いられる装飾)と捲草を象った「泥塑」は火災防止に役立つとされ、これらもまた台北孔子廟で精彩を放つ工芸美術の一つです。

素朴な石材を用いた庭園中央に位置する大成殿は、四面に走廊(回り廊下)を巡らせた、独立した建物になっています。回廊には42本の簡素な線が彫刻されており、泉州産胡麻石の石柱も無紋です。これは孔子の飾り気のない性格を表すものですが、数量は台湾一です。大成殿前で祭典が催される時、楽器を置いたり、踊りを奉納する舞台「丹墀(月台)」の前にある「御路」(舞台中央に斜めに設置された石版状のもの)には雲龍の彫刻があります。珠と印章をしっかりと持ち、じっと古今を見つめるその姿は実に雄壮で力強く、芸術性の高い彫刻だと言えます。

大成殿の中央には偉大な先師孔子を祀る神龕(神棚や仏壇のようなもの)と位牌が安置されています。「上枋」には黒地に金字で「有教無類」と刻された扁額が掛けてあります。これは蒋介石が記した文字です。「中枋」には民国97年(2008)に馬英九総統より寄贈いただいた、「道貫徳明」と記された扁額があります。その左右の壁には四配(復聖顔子、述聖子思子、宗聖曾子、垂聖孟子)と十二哲(閔損、冉雍、端木賜、仲由、卜商、有若、冉耕、宰予、冉求、言偃、顓孫師、朱熹)の位牌が安置されています。

正殿内の天上には八角形の藻井(彫刻や絵画などで装飾された天井飾り)があります。下の方は計24本の斗拱で組まれて4層重なり、その上にある斗拱16本は中心に向かって収縮するように伸びています。車輪の輻(や)のように広がる極彩色の装飾は壮麗の極みだと言えます。藻井の四隅にあるコウモリの彫刻は、「福を囀る」ことを意味しています。

7

東廡と西廡、弘道祠

東廡と西廡は対称的な建物です。他の建物よりやや低く、昔の住宅のようです。大成殿、儀門とともに合院(中国の伝統的建築様式)を形成し、孔子廟の中心となっています。内部の梁に施された彫刻はごく簡素なもので、回廊には題字も対聯もなく、石柱が整然と並び、すっきりとした美しさを感じさせます。廊下の柱上部の斗拱には螭龍の装飾があります。その姿は実に生き生きとして、中国南方の建築様式の巧みな技術と美しさが十分に発揮されています。建物内の神龕には孔子の弟子や、儒学の発揚に貢献のあった歴代の儒者、賢者計154名が祀られています。

古くから学問の気風あふれる大龍峒は、「五戸に一秀、十戸に一挙」と讃えられます。「五戸に一人は秀才がおり、十戸に一人は挙人がいる」という意味です。「秀才」とは、科挙の県試に合格した生員を指し、「挙人」とは、科挙の郷試合格者を指します。1851年、陳維英氏は台湾兵備道徐宗幹によって「孝廉方正」に推挙されました。1859年、郷試に合格し、内閣中書に任じられました。陳氏は、明志書院、噶瑪蘭仰山書院、艋舺学海書院などで教鞭を執り、数々の英才を育てるなど、台湾教育界に大きな貢献のあった人物で、『太古集聯集』、『郷党質疑』、『倫問録』などの著書があります。そして2006年3月、陳維英氏も弘道祠に祀られることになりました。陳氏は、1919年に最後の儒学者が祀られて以来、初めて孔子廟に祀られた地元出身の人物です。



8

終わりを慎み遠きを追う—崇聖祠

孔子廟の建物の配置は家廟や宗祠に相通じる点があります。「家廟」とは、一族の祖先の霊を祀る建物のことです。崇聖祠の横の長さは五開間(伝統的建築物の横幅を表す単位)です。東西両側の建物はもとは庫房(倉庫)でしたが、現在は文物展示室とマルチメディア放映室になっています。

崇聖祠は聖祖殿とも称されます。中国数千年来の宗族倫理制度をもとに、崇聖殿は孔子の祖先五代を祀る殿堂となっています。そのほかに孔子の兄、四配の父、歴代儒者と賢者の父が祀られています。

